

アルプロン HM

NETIS: KK-120060-A登録
NEXCO断面修復材規格対応

『エポキシ樹脂と特殊骨材がセットになっており、誰でも簡単に施工ができる樹脂モルタルです。』

特許出願中 特願2014-166445

用途

- ・断面修復
- ・欠損部補修
- ・充填接着

特長

- ・高弾性・高強度
- ・小分け製品※計量不要
- ・1回の厚みが最大5cm
- ・便利な使いきりタイプ

NEXCO規格



NEXCO 構造物施工管理要領(平成19年度8月版)
左官工法による断面修復の性能照査項目基準値に対応

- 一般的なコンクリート構造物の断面修復。
- 高強度を必要とするコンクリートの断面修復。
- 早期強度が必要なコンクリートの断面修復。
- コンクリート構造物の欠損部補修。
- コンクリート二次製品等の補修。
- セグメント製品等のコンクリート部材の充填接着。
- セバ穴部の充填接着。

- ☆ コンクリート以上の圧縮強度が得られます。
- ☆ コンクリートと同等の静弾性係数・熱膨張係数を有します。
- ☆ モルタル・コンクリートに強力に接着します。
- ☆ 作業性・成型性・耐水性・耐候性に優れています。
- ☆ 断面修復後は、コンクリートの中性を防止します。
- ☆ 割れ・ひびが発生しにくい。
- ☆ NEXCO断面修復材の規格に対応した樹脂モルタルです。
- ☆ 計量の必要がない小分け製品のため施工管理が容易です。
- ☆ モルタル、コンクリートでは難しい薄層の施工が可能です。
- ☆ 汎用エポキシパテ材に比べて安価で済みます。

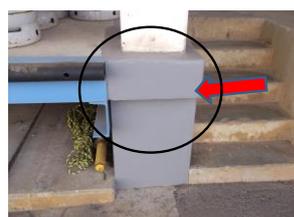
品質項目	結果	基準値
硬化時間	3時間	1時間以上
厚塗り性	たれ、ずれ、はがれ、ふくれを認めず	たれ、ずれ、はがれ、ふくれのないこと
断面修復材の外観 (塗装無し) 「温冷繰り返し試験後」	均一で、われ、はがれ、ふくれを認めず	均一で、われ、はがれ、ふくれのないこと
硬化収縮性	0.01%	0.05%以下
	反り返りを認めず	硬化に伴う発熱により反り返りが無いこと
熱膨張性 「硬化収縮試験後」	$7.8 \times 10^{-6}/^{\circ}\text{C}$	$2.0 \times 10^{-5}/^{\circ}\text{C}$ 以下
コンクリートとの付着性	標準	2.8N/mm ² (基盤破壊)
	湿潤	2.8N/mm ² (基盤破壊)
	耐アルカリ性	2.5N/mm ² (基盤破壊)
	温冷繰り返し	2.6N/mm ² (基盤破壊)
塗装塗膜との付着性 ※1)	自社試験にて確認	1.0N/mm ² 以上
圧縮強度	143N/mm ²	補修設計で定めた設計基準強度以上

施工例

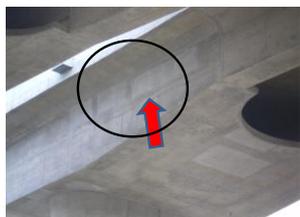
- ・ストラット部の充填
- ・拡幅部の充填
- ・セグメントの充填接着
- ・欠損部の充填



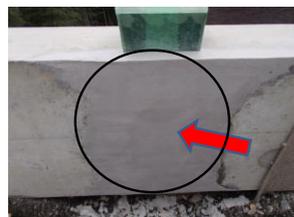
ストラット部



基礎欠損補修部



断面修復部



欠損修復部



橋脚充填接着部



橋面充填補修部

アルプロン HM TECHNICAL DATA

<性 状>

	主剤	硬化剤	骨材	試験方法
配合比 (重量比)	主剤 / 硬化剤 / 骨材 = 100 / 20 / 600			—
粘度(20℃)	15000 mPa・s	40 mPa・s	—	JIS K 6833
	5000 mPa・s			
比重(20℃)	1.19	1.06	—	JIS K 6833
硬化物比重	2.27			JIS K 7112
可使時間	130 分 (20℃ 300g)			温度上昇法
指触硬化時間	4.5 時間 (20℃ 500μ m)			RC式乾燥時間測定

<物 性>

試験項目	測定値	試験方法
圧縮強度	130.5 N/mm ²	JIS K 7181
圧縮弾性係数	1.80 × 10 ⁴ N/mm ²	JIS K 7181
引張強度	21.1 N/mm ²	JIS K 7161
せん断接着強度	18.5 N/mm ²	JIS K 6850
硬化収縮率	0.01 %	JHS 416
熱膨張係数	1.86 × 10 ⁻⁵ /℃	JHS 416

塗膜との付着性 ※1)

試験項目	塗装樹脂	測定値	基準値	試験方法
塗装塗膜との付着性 [温冷繰り返し試験後]	アルプロン W-305	1.6N/mm ²	1.0N/mm ² 以上	JHS 416
	アルプロン W-302	1.6N/mm ²		
	アルプロン上塗り	1.5N/mm ²		

NEXCO 規格

左官工法による断面修復材の性能照査項目

塗装塗膜との付着性(自社試験)

・温冷繰り返し試験

(23℃水中18時間→-20℃3時間→50℃3時間) 10サイクル

項 目	試験結果の平均値
圧縮強度 (N/mm ²)	1 2 3
静弾性係数 (kN/mm ²)	2 3. 4

JIS A 1149

コンクリートの静弾性係数試験方法

<使用方法>

1. 下地処理

下地表面(接着部位)の脆弱部、レイトンス、錆、ゴミ、汚れ、油分等を除去する。

2. プライマーの塗布

施工箇所にプライマーを塗布してください。

3. 樹脂の混合

主剤・硬化剤を容器から取り出し、均一になるまで十分に混合攪拌する。

4. 樹脂と骨材の混合

混合した樹脂と骨材を電動ミキサー・ヘラ等で十分に混合する。

5. 施工

可使時間内に金ゴテ・ヘラ等で施工箇所に充填する。

6. 養生

施工後、樹脂が硬化するまで十分に養生する。

※必ず樹脂(主剤と硬化剤)を混合してから、骨材と混合して下さい。

※壁・天井面には、同梱のダレ止め材を使用して下さい。



←混合状況



仕上状況→

荷 姿	1箱 : 3.6kg/セット	1箱 : 18kgセット (9kg × 2)

取り扱い上の注意事項

- ・火気のあるところでは使用しないで下さい。
- ・万が一、火災発生の場合は、炭酸ガス・泡又は粉末消火器で消火にあたって下さい。水は使わないで下さい。
- ・容器からこぼれた場合は、砂を散布して処理して下さい。
- ・施工中及び養生中は十分に換気を行い、ミストや蒸気を吸い込まないようにご注意ください。
- ・必要に応じて有機ガス用防毒マスク、保護手袋、保護メガネ等の保護具を着用して下さい。
- ・取り扱い中は直接皮膚に触れないようにして下さい。触れた場合は、石けんでよく洗い落として下さい。触れた部分に痛みや外観変化がある場合は、医師の診察を受けて下さい。
- ・目に入った場合は、直ちに多量の水で洗い、医師の診察を受けて下さい。
- ・万が一飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けて下さい。
- ・取り扱い後は手洗い、うがいを行って下さい。
- ・保管は直射日光や雨の当たらない、高温にならない場所にして下さい。開封したものは密封して下さい。
- ・各製品の配合比は規定の比率を厳守して下さい。
- ・混合攪拌したものは可使時間以内に使いきって下さい。(可使時間は高温では短くなり、低温では長くなります。また、混合量が多いと短くなり、少ないと長くなります。)
- ・一度に大量に混合すると発熱し煙が発生する場合がありますので注意して下さい。
- ・施工環境は温度5℃以上、湿度85%以下となるようにして下さい。
- ・詳細な内容(MSDS・技術資料等)が必要な場合は、下記のところにお問い合わせ下さい。

日米レジン株式会社

E-mail: resin@nichibeiresin.co.jp

URL: http://www.nichibeiresin.co.jp

- ・本社・工場・研究所
- ・関東営業課
- ・東京事務所
- ・大阪営業課
- ・札幌営業所
- ・仙台営業所
- ・名古屋営業所
- ・福岡営業所
- ・鹿児島営業所

- 〒596-0013 大阪府岸和田市臨海町15番地
- 〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港32-27
- 〒104-0032 東京都中央区八丁堀1丁目12-4
- 〒596-0013 大阪府岸和田市臨海町15番地
- 〒063-0836 札幌市西区発寒十六条13丁目-5-1
- 〒984-0002 仙台市若林区卸町東3丁目4-8
- 〒485-0012 愛知県小牧市小牧原新田1371
- 〒815-0031 福岡市南区清水1丁目16-8
- 〒890-0073 鹿児島市宇宿2丁目-1-8

- TEL.072-438-0321 FAX.072-438-0366
- TEL.043-216-3541 FAX.043-301-8131
- TEL.03-6280-4210 FAX.03-5542-2641
- TEL.072-423-8363 FAX.072-423-8366
- TEL.011-665-1666 FAX.011-665-6662
- TEL.022-287-1577 FAX.022-287-5526
- TEL.0568-76-5678 FAX.0568-76-8590
- TEL.092-551-6871 FAX.092-551-6842
- TEL.099-206-9161 FAX.099-285-2626